

野の仏さまにおききました

2023.1.2(月) NO4



合掌地蔵(獅子窟寺)

石の仏を造る人・祀る人・そして拝む人

令和4年は終息しないコロナ禍をはじめ、年が明けた2月24日に始まったロシアのウクライナへの軍事侵攻さらに夏の参議院議員選挙で遊説中に凶弾に倒れた安倍晋三元総理の死、交通事故、残虐事件など。

国際的無法や暴力の前に、世界の法と秩序、平和と安全が脅かされた一年であったと思います。

令和5年は明るいニュースで溢れんばかりの一年でありますように合掌 !!!

【わが国の建国神話】

あまのした おお
「八紘を掩いて」

=元旦や神代のことも思はるる=

室町時代末期に活躍した俳祖・荒木田守武の句である。

「年」という字「稔」に通じており、上代の人々はお米の穫る期間を一年と考えていた。

子供の頃、「年のはじめの例として 終わりなき世のめでたさを

松竹立てて門ごとに 祝ふ今日こそ楽しけれ」というお正月の歌をよく歌った。

年の始めに「終わりなき世のめでたさ」を祝うことは、国の始源とも言うべき神代を知り、民族の歴史と自らの生を関連づけてこそその思いであろう。

わが国最古の神話・歴史書である『古事記』『日本書紀』には、天地の初発の時、未だ混沌とした世界の中から一本の足牙のように天之御中主神が生じ、神となり、その神を中心に万のものを結び合わせて生生化育する産巢日の神二柱(高御産巢日・神産巢日)が生じた。

この三神は目には見えない働きをもち、次々に万物が生じた。

その中から伊邪那岐・伊邪那美という陰陽二神が祖となって嶋や国を生み、山川草木をはじめ青人草が生み出されていった。

やがて清められた国土に高天原を治す天照大御神の孫・瓊瓊杵尊が三種の神器と共に稲を携え降臨し、その

御子孫である神倭伊波禮毘古命(後の神武天皇)が「八紘を掩いて宇とせむ」との家族国家の理想をもって

国家をおつくりになった、というのがわが国の建国神話。

ご紹介させていただきました。

(参考資料) 人間学を学ぶ月刊誌「致知」

巻頭の言葉・高千穂神社宮司:後藤俊彦

*「八紘一字」の標石、郡津神社と倉治(結了町集会所)に碑が残っています。

令和5年は「古い悪魔」でいきます

【オ】おこるな 【イ】いばるな 【ア】あせるな 【ク】くさるな 【マ】まけるな 自分との約束や

野の仏さまは『それで行けとおっしゃいました』

=了=

*「野の仏」の写真は交野市内で撮影したもので、文と一致したものではありません